

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500121		
法人名	医療法人社団 上田病院		
事業所名	グループホーム たんとん		
所在地	室蘭市日の出町2丁目2番26号		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成27年4月3日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事では春の水族館見学、夏のバーベキュー、秋のぶどう狩り、大運動会、登別市のミニ植物園へのドライブなど毎年行っています。ユニット合同での昼食会、お好み焼きパーティーなども行っています。町内会の方に参加していただき救命講習なども行っています。ご家族の面会が多く行事などにも参加してくれています。元気な方と車いす生活している方がいますのでその方に合わせて生活をしています。元気な方には現在の生活が維持できるように筋力維持のためのストレッチ体操や、階段昇降、を行い毎日行うラジオ体操などは車いすの方も参加してもらっています。このほかパズル、塗り絵、職員手作りの文字合わせなどテーブルで楽しめるものなども行っています。入居者さんが作成した貼り絵なども廊下に展示して家族の方にも楽しんでもらっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=trve&JigyosyoCd=0193500121-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 3 月 11 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を作成して玄関に表示している。理念に沿った安心と尊厳のある生活が出来るように職員と話し合い努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方には春と秋の防災訓練、夏のベークュー救命講習、などへ参加してもらっている。たんどんからも公園の清掃などは元気な入居者さんと一緒に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、防災訓練など参加していただきながら認知症の方の接し方など地域の方に理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行っている。運営推進会議ではグループホームの業務報告を行い、消防署、町内会の方、包括支援センターの方、家族の方など意見も活発で支援の方法などの質問などもある		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査などを行い市役所の担当の方とは連絡を取り合いながらケアサービスの取り組みなどを理解してもらっている。運営推進会議を通じて事業所の報告なども行っている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては契約書にも記載している。契約時に説明して理解していただいている。通常の介助では生活できない方もおり家族と話し合いをして車いす生活時安全ベルトを使用している方が2名いる。1名は夜間帯職員が1名の時だけ使用している。玄関の施錠は行っていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては職員間でも接遇員会などで言葉使いなどお互いに注意し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会はしたことはないが空ユニットで後見人制度を利用している方がおり、行事などにも参加してくれているため職員も理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時ご家族の方には十分に説明を行い納得していただいております		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方と信頼関係を築けるように注意している。面会時など最近の入居者さんの様子を説明、毎月月次報告書をお送りしている。苦情窓口を設置し意見や苦情があった場合は速やかに対応できるようにしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い施設長、職員と意見交換を行っている。定期的な職員の研修や面談もある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が自己評価を行い施設長と個別に面談で職員の状態を把握している。資格を所得するするために、勤務時間の調整なども行って、個人の向上心が保たれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修や、個人の勤務年数に合わせて個別に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭市、登別市、伊達市のグループホーム広域連絡会の研修、室蘭市グループホーム連絡会の研修などに積極的に参加して情報の交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、担当のケアマネ、家族などから情報を収集している。入居後は本人を観察しながら、表情や言葉などアセスメントしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族と話し合い、要望など聞きながら対応している。ケアプランは入居時2週間で見直し、家族と連絡を密に行い話しやすい関係を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時2週間毎でアセスメント、ケアプランの見直しを行っている本人のその時の状況に合わせてケアプラン作成し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食やお茶など一緒に食べたり、体操なども一緒に行い入居者さんとの信頼関係を築くようにしている。その人らしく生活できるように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には入居者さんの近況を報告し、受診など受けた時には家族にも連絡し、常に情報を共有し、話し合いながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会が頻回にある。本人が馴染みの物を入居時には持ってきてもらい、今までの生活を継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の性格を把握している。人の好き嫌いがあつたりするのでトラブルにならないようにケアプランにも記載している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去した時なども必要に応じて家族と連絡を取り合い相談に乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように生活したいかなどは入居時に本人から聞ける時は聞いている。意思の疎通が出来ない人は家族から意向を聞き、ケアプラン更新時にも本人、家族などから介護に関する希望など聞きながら対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に担当にケアマネから情報を得ている。家族の方からの情報と一緒に生活しながら本人からも聞き取りなど行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者さん一人一人の生活を大事にして、本人の状態に合わせて生活してもらっている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞きながら、毎月のユニット会議では入居者さんの状態など話し合って対応している。介護計画書はアセスメントを行いサービス担当者会議を開催して介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に作成、ケアプランに沿って記入できるように工夫している。毎日の申し送りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族からの要望があればその都度柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事など出来る事は参加している。室蘭市介護ボランティアの参入などで入居者一人一人個別の楽しみを作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合い、本人が今迄通院していた病院へ受診している人もいます。整形外科、歯科、皮膚科などその時の状態に応じて受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいるので入居者さんの変化あれば報告し指示を仰いでいる。法人内の医師が月に2回健康相談に来てくれている。看護師も訪問看護で同行している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を作成して生活状況を説明している。入院先の看護師や相談員などとも連絡を取り合い退院後の生活を相談している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後3ヶ月で家族と話し合い、終末期の覚書を作成している。また看取りなども家族の希望で行い、家族と協力し合い職員全員で支援し見送りをした人もいます。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している。研修や毎日の申し送りの時にシュミレーションを行い、職員誰もが対応できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回（春と秋）防災訓練を行っている。町内会からも大勢参加してくれている。職員全員が経験できるように勤務状態を考えながら防災訓練の計画を立てている。災害時用の食糧、水、ガスコンロの用意なども準備している。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の性格などをしっかりと把握して本人を傷つけないように声のかけ方など注意している。ケアプランにも反映させている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞きながら入居者さんの意思を尊重している。自己決定できる人には自分の思い通りに生活できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、入居者さんの生活を優先している。上記にも記載しているように自分のペースで自由に生活できるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は化粧をしたり、自分で洋服を選ぶ人はそれぞれにおしゃれを楽しんでいる。男性は髭剃りなど声かけし時には介助することもある。自分で選ぶ事が出来ない人はその人らしく季節感を持って洋服を選んでる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんで調理をする人はいません。その人の好みを把握して提供している。井物が嫌な人には具材を別にする、麺類が駄目な人は違うメニューで提供するなどしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせ摂取量など決めて提供している。食事、水分の摂取量は記録に記入して毎日確認している。提供する形態もその人に合わせてキザミ食、ミキサー食で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い自力で出来る方は声かけして見守り、出来ない方は介助している。義歯は毎日夜間預かり消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居、間もない方は排泄パターンを作成して排泄の時間など把握している。自力でトイレに行く方も声かけを行い排便の確認や、汚染の確認を行っている。バルーンカテーテル使用している方もいるので毎日陰部の洗浄を行い清潔にするように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認を行っている。出ない日が続く人などは腹部のマッサージや食前の野菜ジュース、黄な粉ヨーグルト、糸寒天、など食物繊維の多い食べ物を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回入ってもらっている。拒否する時は無理強いせず翌日に入ってもらったりしている。車いすで対応する方もいるが職員2人で対応し安全に入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の好きなように生活してもらっている。毎食後1時間くらいベッドで横になる人、ソファでウトウトしている人などいます。日当たりも良いのでカーテンをかけるなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと服薬している。服薬時には本人と薬の確認を声を出して行い他の職員も確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のあった役割やレクなど行っている。全員で何かを行うことはまれで個人的に数人で行っている事が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は外へ出る機会は少ない。温かい季節は毎日外へ出て日光浴をしたり散歩を行っている。冬期間は近隣の植物園までドライブに行くなどしている。季節ごとに年間行事で水族館、ぶどう狩りなど家族も参加してもらっている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者さんでお金を持っている人はいない。買い物なども本人が希望した時には一緒に行ったりしている。また家族と一緒に買い物にだ掛けたりする人もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話設置しており本人がかけたいと言う時に自由に掛けられるように小銭も準備している。家族と話し合い携帯電話を所持している人もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下が広くレクや行事などにも使用している。日差しが入り午後から日向ぼっこをしたりする方もいる。窓際には観葉植物を置き、季節感を感じてもらえるように飾りつけなどにも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い人同士座りあってテレビを見たり話をしたりお互いの部屋を行き来したりしている。リビングはそれずれに座る場所が決まっているが食事の場所は移動して気分を変えている。男性は囲碁や将棋など楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と話しをして本人の使っていたタンスや、小間物、仏壇を持ってきている人もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下が広い歩行などの見守りなども出来やすく筋力を低下させないように手すりストレッチ運動、階段昇降など行っている。		